

シベリアのポーランド孤児救済が つないだ 日本とポーランドの絆

—ポーランド孤児神戸出港100周年記念—



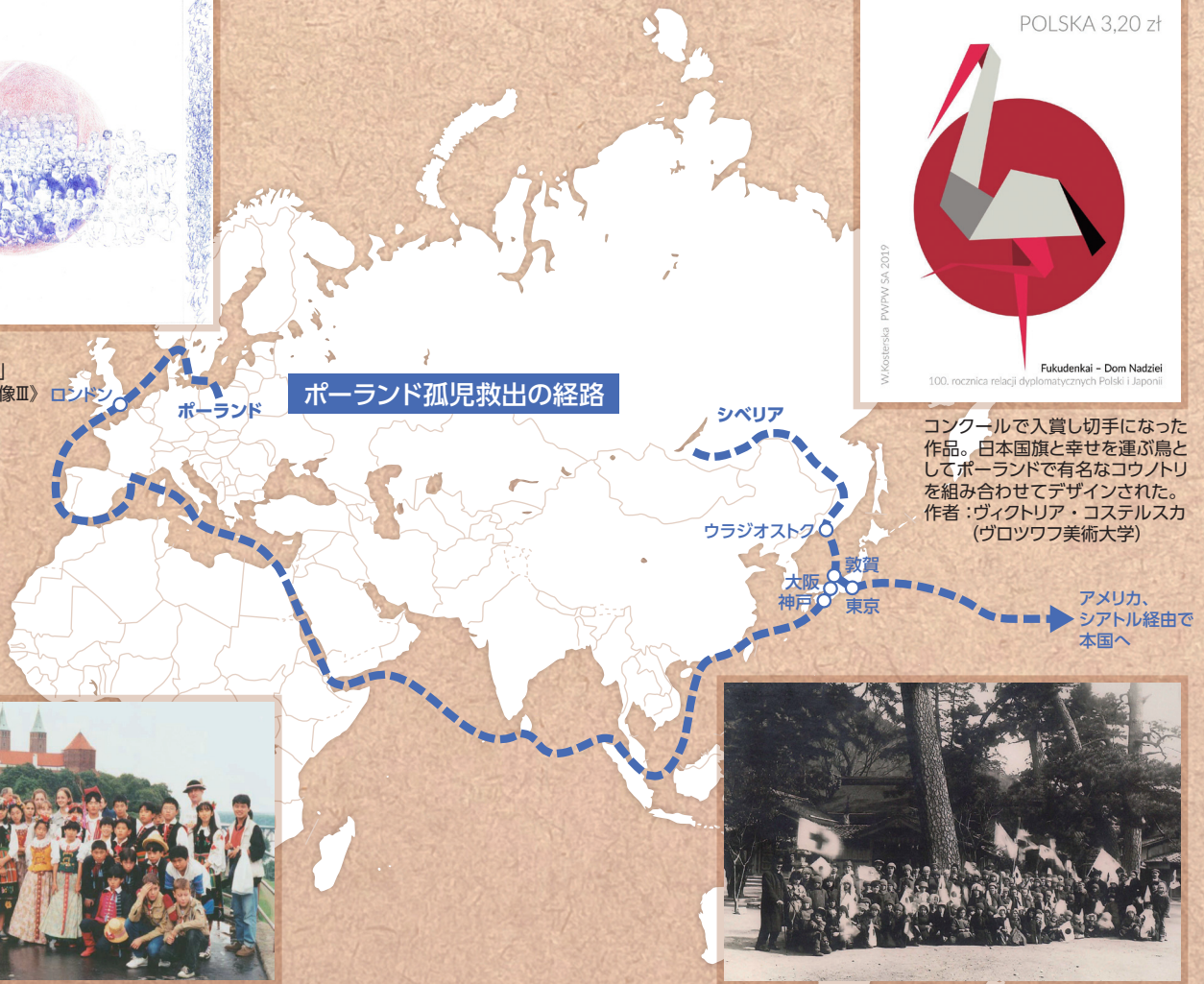
ズザンナ・ピエチンスカ
《シベリアの子どもたち》
シリーズよりグループ肖像Ⅲ
2022年



Wykosińska PVPWPW SA, 2019

Fukudenkai - Dom Nadziei
100. rocznica relacji dyplomatycznych Polski i Japonii

コンクールで入賞し切手になった作品。日本国旗と幸せを運ぶ鳥としてポーランドで有名なコウノトリを組み合わせてデザインされた。作者：ヴィクトリア・コステルスカ（ヴロツワフ美術大学）



ポーランド孤児救出の経路

アメリカ、シアトル経由で本国へ



阪神淡路大震災被災児童のポーランド招待



敦賀の松原での孤児たち

2023年2月14日 火 ▶ 2023年2月28日 火 10:30~17:00 (土・日・祝は休館)

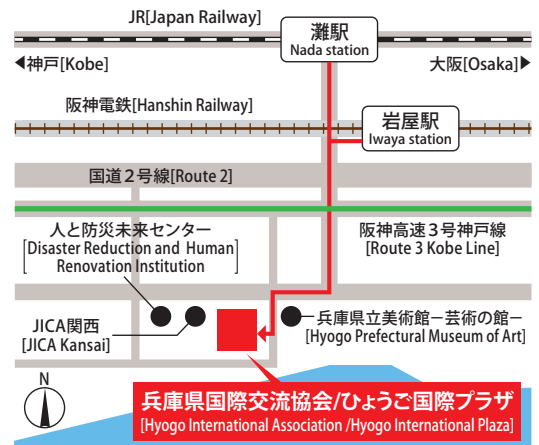
開催場所 (公財) 兵庫県国際交流協会
ひょうご国際プラザ交流ギャラリー
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 (国際健康開発センタービル2F)

入場無料

セミナー 「100年前の孤児救済が結ぶ日本とポーランドの絆」
2月17日(金) 14時より開催! (詳細は裏面をご覧ください。)

主催：日本ポーランド協会関西センター、社会福祉法人 福田会
共催：(公財) 兵庫県国際交流協会
後援：敦賀市、日本美術技術博物館 Manggha、ポーランド広報文化センター、神戸新聞社、(公財) 双日国際交流財団

お問い合わせ先：(公財) 兵庫県国際交流協会 企画広報課
TEL:078-230-3267 (平日9:00~17:00)
<https://www.hyogo-ip.or.jp/>



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 3 気候変動 (Climate Action)
- 4 質の高い雇用と経済成長 (Decent Work and Economic Growth)
- 10 人や国の平等 (Reduced Inequalities)
- 16 公正な社会と法の支配 (Peace, Justice and Strong Institutions)
- 17 持続可能な開発 (Sustainable Cities and Communities)

「私たちは「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献します」



1920年、22年に日本赤十字社を中心として、敦賀、東京、関西で行われたシベリアのポーランド孤児救済は、日本とポーランドの歴史が本格的に交わる最初の経験でした。同時に、日本にとっては初めての組織的な難民救済事業であり、123年ぶりに独立を回復したばかりのポーランドにとっても大きな意味をもつできごとでした。本展示会では、100年前のこの救済事業をきっかけとした、両国の今日までのさまざまな交流と絆の足跡をご紹介します。

社会福祉法人 ふくでんかい 福田会

1920年、シベリアのポーランド孤児が来日した際、東京での滞在先として孤児たちを受け入れた施設です。この歴史をきっかけにポーランドとの交流が続いています。

ポーランドでは2019年、日本との国交樹立100周年を記念して、現地の郵政局とヴロツワフ美術大学がデザインコンクールを開催し、「福田会一希望の家」と題した記念切手セットが発行されました。本展では、切手の原画や、コンクールでの入賞作品等を展示します。

人道の港 敦賀ムゼウム

敦賀港は、1920年代にポーランド孤児、1940年代に「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。

資料館「人道の港 敦賀ムゼウム」では、孤児と難民が上陸した歴史、彼らに手を差し伸べた人々のこと、そして敦賀のまちの人たちが迎え入れた様子を後世に伝えています。本展では、日本赤十字社に残る記録や、元ポーランド孤児の日本滞在の様子、彼らの日本への思いについて紹介します。

日本ポーランド協会関西センター

1975年4月設立。日本とポーランド両国民の相互理解と友好親善に寄与することを目的とする民間の任意団体です。2022年にはポーランド孤児たちが祖国に向けて神戸港を出航してから100周年を迎え、この歴史をより広く知ってもらうためにコンサートや講演会など様々なイベントを開催してきました。本展では、1995年の阪神淡路大震災の際、恩返しとしてポーランドが被災児童を招待したできごとや、その後の交流についてご紹介します。

日本美術技術博物館 Manggha

ポーランドにおいて唯一日本文化を紹介している国立の機関です。1944年、映画監督アンジェイ・ワイダの京都賞受賞をきっかけに、彼とクリスティーナ・ザフファトヴィッチの提唱により設立されました。本展では、ポーランド・クラクフの若手作家9人がポーランド孤児の帰還100周年を記念して作った、孤児たちの100枚の肖像画の一部を展示します。



所蔵：日本赤十字社

約100年前にポーランド孤児が福田会園庭斜面で撮影した記念写真。福田会には現在も同じ場所が残っている。

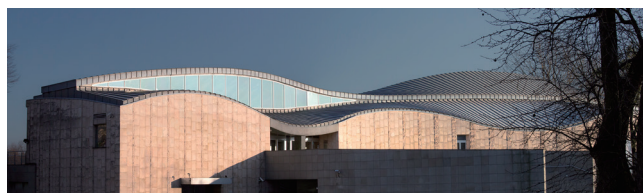


人道の港 敦賀ムゼウム 外観



日本赤十字社大阪府支部提供

神戸港から帰国するために乗船する孤児たち



日本美術技術博物館 Manggha 外観

セミナー

100年前の孤児救済が結ぶ日本とポーランドの絆

日時 2023年2月17日(金) 14:00~15:30

場所 国際健康開発センタービル9階 会議室(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1)

講師 西川 明德(人道の港 敦賀ムゼウム 館長)

藤井 和夫(関西学院大学名誉教授/日本ポーランド協会関西センター 代表)

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温やマスク着用にご協力をお願いします。
- 当日、発熱や風邪のような症状のある方は、参加をお控えください。
- 今後の新型コロナウイルス感染状況により、セミナーを中止する場合があります。

定員
30名

参加
無料

要事前
申し込み

下記QRコードより
お申込みください。

